

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-60

学校名・団体名	安城市立二本木小学校
HPアドレス	http://www.anjo.ed.jp/~nihongi/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	熊本へ笑顔をお届けよう ～二本木小 絆プロジェクト～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成28年4月、二度にわたり震度7の地震に見舞われた熊本県益城町。この被災地の子どもたちに対して、いち早く日常の教育活動を取り戻すための心の支えになりたいと考え、義援金や応援メッセージ、ビデオレターの送付、被災地訪問など、早急かつ継続的な支援に取り組む。</p> <p>熊本県益城町立広安小学校は、学校規模や地域性が本校と類似しており、とくに「笑顔あふれる学校」や「あいさつ運動」など共通した教育目標をもっていることから、児童会を中心に交流を進めることにより、両校の教育活動に相乗効果を生み出し、いち早く笑顔を取り戻すことができると考える。</p>	

1 緊急災害支援募金活動 ～「おはトラ」から「くまモン」へ～《4月》

平成28年4月14日、16日の二度に渡り震度7の地震に見舞われた熊本県益城町。この厳しい現実を知った児童会が立ち上がり、登校時に校門にて緊急災害支援募金活動を始めた。本校のマスコットキャラクター「おはトラ」も募金活動に参加し、20万円余が集まった。「おはトラ」は「あいさつ日本一」をめざす応援隊長として、二本木ゆるキャラグランプリ300点余の応募の中から選ばれた本校の人気者であり、募金活動の一翼を担う存在であった。



2 くまモンカードに応援メッセージ《5月》

児童会の発案により、くまモンのイラストの形をしたカードを作り、児童全員が自分の思いをメッセージにした。保護者、地域へも協力を呼びかけ、1,000枚以上のメッセージが集まった。集まったカードはラミネート加工をして、学級ごとにまとめて、ひもに短冊のようにくくりつけた。このメッセージカードは、「おはトラ」を通して被災地の子どもたちに直接手渡しをすることができた。

3 熊本・広安小学校であいさつ運動《5月》

授業再開から半月後の5月23日、未だ余震が続く熊本・広安小学校へ校長と教員2名が向かった。本校を代表して「おはトラ」が、子どもたちの登校を待って正門にてあいさつ運動を展開した。大きな揺れから千数百回の余震に見舞われ続けている子どもたちの心は沈みがちであったが、「おはトラ」を見つけると、駆け寄って握手を求めたり、抱きついたりするなど、多くの子どもたちとのふれ合う姿があり校内に笑顔が広がった。



4 安城七夕まつり「願いごと短冊」で交流《8月》

8月5日からの3日間、安城市では七夕まつりが開催された。安城七夕まつりは「願いごと日本一」をキャッチフレーズに、毎年メイン会場に短冊ロードを作り、市内小中学生をはじめ、市内外から訪れる観光客に人気を集めている。この会場に広安小学校の子どもたちの願いごとを飾り、夢と希望を育もうと考え、広安小学校の子どもたちにも願いごとを書いてもらった。七夕まつりの初日、児童会役員及び有志が会場に集まり、本校児童780人と広安小児童645人分のコラボ展示が実現した。この様子はNHK、CBCテレビのニュースで放映され、多くの反響を呼び、両校が交流を始めるきっかけとなった。

5 「明日があるさ」に乗せてビデオレターの送付《8月》

安城七夕まつりのパレードには、毎年ブラスバンド部が演奏パレードをして、七夕まつりの竹飾りとともに華やかな演出に一役を買っている。くまモンをはじめ熊本を応援する飾り付けの数々が見られ、その中を「明日があるさ」の横断幕を掲げパレードをした。この様子と願いごと短冊飾り付けの様子をビデオに収め、児童会代表5名のエールを添えて、ビデオレターにして送った。



6 二度目の広安小学校訪問《8月》

夏休みを短縮して8月末から2学期が始まっている広安小を校長と教員2名が訪問した。6年生担任は、震災から4か月以上経過しているのに、未だ多くの爪痕が残っている学校やその周辺の状況を目の当たりにして、この現実を6年生の総合学習に生かそうと考えた。また、広安小の6年生担任とも懇談し、学校生活の厳しさをあらためて感じ取ることができ、卒業に向けて何か力になれることはないかと模索し始めた。積極的な交流を求めての学校訪問ではあったが、熊本県内の復興には濃淡が見られ、中でも益城町はいわば取り残された状況にあり、引き続き支援に力を入れたいという思いで帰途についた。

7 広安小の大運動会へ応援旗の送付《9月》

震災の影響で延期になっていた運動会が9月23日に開催されることが決まった。このことを知った6年生が、応援旗にメッセージを寄せ書きした。厳しい生活を余儀なくされている中でも、日々の練習をがんばっている様子を知り、子どもたちはそれぞれに思いを巡らせメッセージとして書き表した。



「広安小で運動会ができると聞いて、とてもうれしくなりました。」

「ようやくできる運動会！成功することを心から願っています。」「笑顔いっぱい元気いっぱいの運動会になるよう応援しています。」など、大きな喜びと期待、応援の気持ちを届けることができた。

8 6年生総合学習「ドリームプロジェクト2016 ～熊本・広安小との交流～」へ発展《10月》

年度当初から自分の生き方を見つめ夢を育む活動を続けてきた6年生は、被災地への思いが募ってきた。9月からは、「熊本・広安小との交流」をテーマに取り組み始め、「今、私たちにできること」を考え始めるようになった。学校の被害状況や生活の様子をメールや画像で送ってもらい、また現地を訪問した担任の話を聞くことを通して、交流を続けることに対しての6年生の思いが次第に強くなっていった。

9 子ども発表会のビデオを送付《11月》

6年生が総合的な学習で被災地を知る取り組みから「被災地の子どもたちの気持ちを理解したい」「少しでも力になれることをしたい」「笑顔を届けたい」など多くの構想が持ち上がり、保護者が参観する中で、これまでの歩みを振り返り、これからできることを発表した。自分たちの思いが届くことを願って、1時間のビデオにまとめ送付した。また、ブラスバンド部は「明日があるさ」に加えて「負けないで」を演奏し、広安小の子どもたちを勇気づけた。

10 熊本へ歌声のエール《2月》

熊本地震から10か月、被災した子どもたちに笑顔を届けるために、児童会が「熊本応援ソング」をつくろうと全校児童に歌詞を呼びかけ、音楽主任が曲を付けた。さまざまな想いを盛り込んだメッセージ性のある歌に仕上がりに、2月8日の二本木音楽祭フィナーレでは全校児童、先生、保護者1000人が、熊本を応援したいという気持ちをひとつとして、体育館いっぱいに歌声を響かせた。この時の様子をビデオにして広安小へ贈った。



平成29年、新年早々に広安小から次のようなメールが届いた。子ども発表会のビデオを鑑賞した校長先生からの言葉である。

あけましておめでとうございます。（途中省略）これまでの貴校との交流の中で、いろいろ伝えていただきましたが、こうして改めて子どもたち自身の言葉で聞かせてもらうと、二本木小の子どもたちがいかに真剣にそして心から私たちのことを思ってくれているのかが、心に迫ってきました。本当にありがたいことだと感謝の気持ちでいっぱいです。

発表の中でご紹介いただいた「本校6年生のメッセージ」の中にもありましたが、「私たちは本当に多くのものを失った。しかし、それ以上にたくさんの人との出会いがあった。」と思います。その筆頭がやはり二本木小学校との交流だったのではないのでしょうか。

『ドリームプロジェクト2016』・・・本当にステキな取組だと思います。これから、卒業に向けて二本木小の子どもたちはますます、「人のために力を尽くす」ってどんなことだろう？ これからも私たちにできることって何だろう？と問い続けていくことでしょう。将来どんな大人になってくれるのか、とても楽しみです。（以下省略）

今後も熊本の子供たちの笑顔が戻るその日まで、ささやかではあるがこれまでの支援を継続していきたいと考えている。来る平成29年3月23日の卒業式には、本校から2名の教員が参列し祝福をする予定である。